

僕 と 剣 道

高知県

若葉会

中学2年

村 田 啓 彰

僕は剣道をしている祖父の影響もあり、小学一年生から剣道を始めました。剣道を通して、あいさつ等の礼儀や、厳しい稽古にも耐える忍耐力、限界を超えてもうひと踏ん張りの力を出し切る精神力など、たくさんのことを学びました。

剣道を始めた当初は、試合に出ても、「始め」と同時に面を取られ、全く手を出せずに終わることが続きました。わずか二分の試合の中で、練習の成果をどう出し切るか、自分と向き合いながらひたすら練習に打ち込みました。少しずつ成果は表れ、勝てる試合も増えていきました。すると、「次も勝つんだ」という決意が生まれ、試合に勝てた喜びや自信とともに僕の気持ちの中で大きく膨らんでいきました。

しかし、小学六年生のとき、新型コロナウイルスが流行し、練習も試合も全くできなくなりました。少年剣道集大成の年に都道府県対抗少年剣道優勝大会で戦うという夢がかなわず、目標を見失ってしまいました。悔しさよりもあきらめの気持ちが強く、すっかりしないまま少年剣道を卒団しました。

中学校に入って、剣道をやめようかとも思いましたが、このまま剣道をやめたら絶対に後悔すると思い、剣道部に入部しました。しかし、剣道部の部員は僕と三年生の先輩の二人だけでした。三学期に先輩が引退すると、僕は一人だけの部員かつキャプテンになりました。

二年生になり、顧問の先生にも協力いただき外部コーチの指導が受けられるようになりました。部員も未経験者が多いですが、同級生一人、一年生二人の四人になり、日々の練習に熱が入り一人であったという弱みが大きく変化しました。僕の苦手な所を直接分かりやすく丁寧に指導していただき、徐々に自分の成長を実感できるようになりました。

そして地区大会を突破し、迎えた県大会。焦らず、一戦一戦に集中しようと心に決めました。すると緊張や不安はなくなり、決勝まで勝ち進むことができました。決勝戦はさすがに独特の緊張感がありましたが、その緊張感ですら楽しもうとする、どこか冷静な部分と、「悔いなくここで決める！」という強い気持ちが僕にはありました。結果は優勝。同時に、四国大会、全国中学校体育大会、都道府県対抗少年剣道優勝大会の出場が決まり、小学生からの目標でもあった高知県代表になるという夢もかないました。結果は、都道府県対抗少年剣道優勝大会でベスト16に残り、高知県代表として初めて決勝トーナメントに上がることができました。四国大会、全国中学校体育大会では、ともに一回戦負けという残念な結果となりましたが、全国レベルの試合を経験することで、今の僕の課題をみつけることができました。

いよいよ中学校生活最後の一年が始まります。課題を克服し、全国レベルで通用する選手

になれるように、これからも稽古を積んでいきたいと思います。そして、高校ではインターハイに出場できるように頑張りたいと思います。